

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000192		
法人名	特定非営利活動法人エイチアンドイーグループ		
事業所名	グループホーム あぐら		
所在地	京都府長岡京市東和苑1-4		
自己評価作成日	平成25年3月19日	評価結果市町村受理日	平成25年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiyogyoCd=2673000192-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を大事にし、職員と利用者が家族のような関係を構築できるようにしている。 ・低所得者及び生活保護受給世帯の方でも利用可能な料金設定を維持している。 ・利用申し込み順ではなく、その型の入所に際しての理由、特に緊急性その他の諸事情を勘案して対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは住宅街の中にあり、開設より10年目を迎え、自治会の集まりの場でグループホームや認知症について話して欲しい等の申し入れを受けるなど、地域の高齢化に伴い自治会との関わりも深まっています。また、運営推進会議では災害時の備蓄の保存場所のアドバイスを貰うなど、貴重な意見交換やホームの現状を知ってもらえる機会となっています。また、3か月に1回開催されるグループホーム連絡会に参加し同業者との交流も図っています。職員は、段差のある所に手すりをつけて自力での歩行や見守り、少しの介助で利用者の日常生活動作の維持・向上を目指したケアを実践し、家庭的な雰囲気の中でキャッチフレーズである「平安」と「やすらぎ」そして「あなたらしさ」を意識し日々ケアに取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そのように努力している	法人の運営方針を基に、「平安」と「やすらぎ」そして「あなたらしさ」とホーム独自のキャッチフレーズを定め、折に触れ職員と確認し合っています。日々家庭的な雰囲気の中で職員と思いを共有し、その人らしく暮らせるよう支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流まではない。	自治会に加入し、年2回の溝掃除に職員が参加しています。近所の方が立ち寄り玄関の椅子でお茶を飲まれたり、民生委員や地域のボランティアの方が尺八やマジックを披露しに訪れています。また、敬老会や地藏盆に参加し交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだその方向性で対応できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一定生かしつつある	会議は自治会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員、行政担当者等の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。参加者から自治会の集まりに参加してホームの事について話して欲しいとの依頼や、災害時の備蓄の保管場所についてのアドバイスをもらうなど、貴重な意見交換やホームの現状を知って貰える会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは電話等で話す機会も多く、直接役所に出向くことも月に1度程度ある	運営推進会議の議事録を市へ届け、相談事等があれば電話をしたり、月に数回は直接市へ出向いています。その際には担当者から声がかかり最近の様子を聞かれるなど、良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束者はいない	会議や職員を指導する中で、身体拘束について具体的な禁止行為を伝達し、職員の理解を促しています。リビングの出入り口はチャイムを設置し、玄関は開錠し自由に行き来出来るようにしています。また、外出を希望される方には一緒に出かけ寄り添い支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	そのように努力している		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ活用までは至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	そのように努力している	家族からは面会時や電話、運営推進会議でも意見を聞いています。運営推進会議の案内の中に家族の意見欄を設けFAXで参加の有無を知らせて貰い意見や要望を出せる機会を作っています。共用空間についての意見を受けて家具の配置を変えるなど出された意見を取り入れ反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	そのように努力している	日々の業務の中で職員から意見を聞いています。月に1回の職員会議では、議題に沿って職員が意見を出し合ったり、ケース会議の場でも利用者のケアや設備等の改善について意見を出し合い、サービスの改善に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そのように努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議には可能な限り参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	そのように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	そのように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そのように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	そのように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのように努力している	友人や知人の訪問時には居室で寛いでもらえるように配慮しています。買い物は馴染みのスーパーへ行く等、利用者の思いに寄り添い関係が途切れないように支援しています。また、知り合いの最期のお別れに職員と一緒に行くこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	そのように努力している		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのように努力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのように努力している	入居前の面接時に利用者や家族、ケアマネージャーから聞き取りを行い、生活歴や趣味など情報を得ると共に思いを聞いています。入居後は日々の支援の中で利用者の行動や表情から、気づきや情報を基にして職員間で検討し、思いや意向を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そのように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのように努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	そのように努力している	本人や家族の希望、アセスメントの内容や職員の意見を基に介護計画を作成しています。毎月のケア会議では、一人ひとりについて支援経過を基にモニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しています。サービス担当者会議を往診時に医師の参加を得るなど、関係者からの意見も聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのように努力している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのように努力している		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用までは至っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	そのように努力している	入居前からのかかりつけ医の受診は、利用者の希望を聞き家族や職員で対応しています。協力医とは24時間連絡がとれ、緊急時等の対応も相談できる体制を整えています。協力医は2週間に1回、必要時に随時往診があります。歯科や皮膚科等の専門医の通院介助を行い適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そのように努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは現在実践していない	利用者が重度化した場合の対応についての方針を契約時に説明しています。原則として、車椅子での生活や常時医療が必要な利用者には、他施設や転院の紹介等の支援をしています。重度化した場合は、医師が家族に説明を行っており、本人の希望で出来る限りホームで過ごしてもらったこともあり、希望を大切に支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだその段階には至っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在構築中である	避難訓練は年2回夜間を想定して自主訓練を行い、実施の報告を消防署にしています。訓練は、通報・消火・避難経路の確認を行い、消防署からもアドバイスを貰っています。運営推進会議の参加者より、備蓄の場所や近隣との助け合いについてのアドバイスも貰える関係が築かれています。	運営推進会議に参加されている自治会長や民生委員と良好な関係が築かれていますので、今後、さらに地域との協力関係を築きながら、避難訓練には、消防署にも来てもらったり地域の方にも知らせてみるれてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのように努力している	利用者の尊厳やプライバシーの保護について外部研修に参加した職員が、ホームの勉強会の中で伝達を行い職員に周知しています。排泄時の声かけは、大きな声で言わない事や利用者の状況に合わせた対応に配慮するよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	そのように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのように努力している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	そのように努力している	献立は利用者の希望を聞き、職員が作っています。職員と利用者が一緒に買い物に出かけ、時にはホームの畑の野菜が食卓に上がることもあります。食事の準備は、玉葱の皮剥きなど利用者が出来ることに携わってもらっています。出前や手作りのおやつ等の楽しみごとを支援しています。夕食は職員も一緒に食べ、晩酌を楽しまれる利用者もあり、食事を楽しめるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのように努力している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではなく、就寝前、起床後に行っている		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	そのように努力している	日中は全員トイレで排泄できるよう支援しています。必要な方には排泄チェックリストを作り、排泄パターンを把握してその人に合わせ声をかけ、誘導をしています。利用者の状況により、二人介助を行いトイレで排泄が出来る方や、トイレに座る習慣を取り戻す支援等を通し、清潔が保たれた事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	そのように努力している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	そのように努力している	週3回の午前中を入浴日としていますが、希望により夕方に入浴される利用者もいます。入浴を好まない方には、無理強いをせず、タイミングを見て声かけを工夫し入浴できるよう配慮しています。柚子や菖蒲などを用い季節毎の入浴を楽しんでもらう工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように努力している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努力している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのように努力している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等により困難な時もあるが、可能な限り外出していただいている	日常的に散歩や買い物に出かけたり、天気の良い日は庭のベンチで日光浴を楽しんでいます。帰宅願望の方には納得のいくまで外出に付き添ったり、個別の希望を取り入れて買い物に行く等の外出支援にも取り組んでいます。家族と一緒に外出に出かける利用者もおられます。	

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	そのように努力している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのように努力している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように努力している	玄関横に畑があり、野菜や花が植えられています。リビングの壁に利用者で作った作品や畑の花を摘んだ生花が飾られています。家庭的な雰囲気、暖炉のあるリビングのソファに利用者が集まり、好きな場所に座りテレビを見たり、食事作りの匂いや音がする中でゆったりと穏やかに過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのように努力している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように努力している	居室は和室と洋室があり、使い慣れた馴染みのタンスや鏡台、テレビ、コタツ、座布団等が持ち込まれ、その人らしい居室となるよう工夫がなされています。利用者は、大切にしている遺影や家族の写真等を置き、安心して過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そのように努力している		